

06/2017

リールジャッキ	頁
型式(44kN ~ 89kN) ●320B	2 ~ 5
型式(89kN ~ 178kN) ●321B	6 ~ 9
型式(89kN ~ 178kN) ●A1029-R ●A1029-L	10 ~ 13



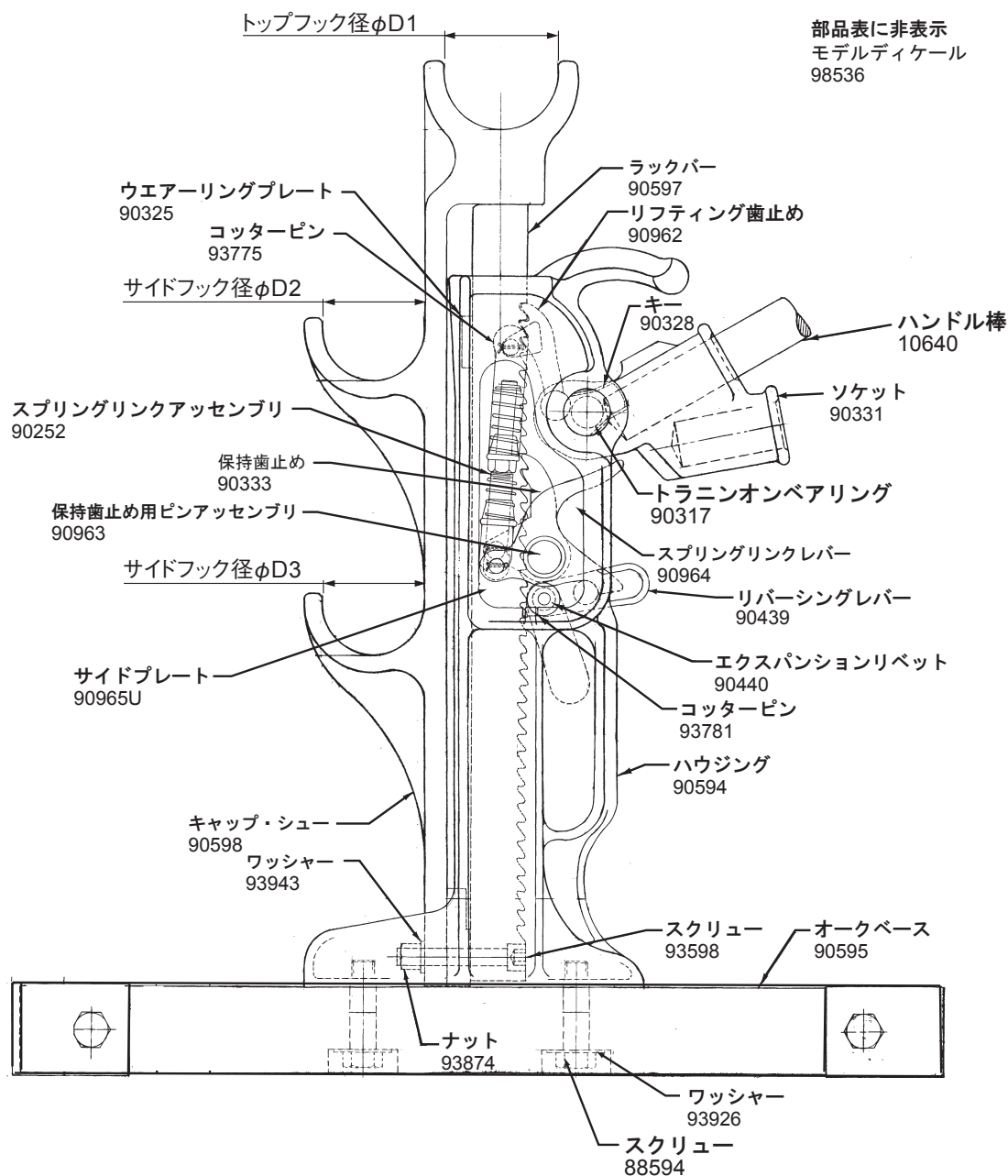
注 意

- この取扱説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意に関して記載してあります。
- この取扱説明書を最後までよくお読みの上、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、すぐに利用できる場所に大切に保管してください。

06/2017

リールジャッキ 型式 320B

部品表



リール軸の使用範囲

型式	フック数	トップフック	サイドフック	
		軸径φD1 (mm)	軸径φD2 (mm)	軸径φD3 (mm)
320B	3	64	51	51

重要伝達事項

ご使用の安全のために

1. 本製品は、当社の取扱説明書をよく読み、製品を十分に理解して、危険性を熟知したオペレーターにより運転・操作・保全を行ってください。
2. 本製品を納入稼働後、貴社にて改造・変更を行って、不具合・事故が発生した場合は、弊社のPL補償の対象となりませんのでご了承ください。
3. 本書に記載されている安全注意事項は、身体や機械の損傷レベルにより、次の3レベルに分けて記載してあります。危険度の高い安全注意事項に特に気をつけて作業を行ってください。



危険

当該記載事項を厳守しないと死亡事故を招く恐れがあるもの。



警告

当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に重大な損傷を招く恐れがあるもの。



注意

当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に損傷を招く恐れがあるもの。

操作方法とメンテナンス方法

ジャッキを操作する前に、下記のジャッキ操作方法の詳細を読み、そして理解して下さい。更に、次ページに記載されています、全ての操作手順と安全注意事項の概略を読み理解して下さい。そして有効な操作手順に従って下さい。亦、作業者は装置の所有者や他の資格を持つ人からの指示や、注意事項を守って下さい。

参考文献

1. ジャッキの産業労働作業のための OSHA 災害予防マニュアル
2. OSHA ジャッキの一般業界標準
3. ジャッキのための ANSI B30.1 安全基準

ジャッキの操作方法

A・上昇

リバーシングレバーを上部方向へ切り替えて下さい。適切なソケットを選び、ハンドル棒がソケットの深さいっぱいには挿入されているかを確かめて下さい。ハンドル棒を確りと握り、下向きの力を加えながら上下にストロークして下さい。ハンドル棒を上げる時は、ジャッキ本体にソケット上のストッパーが当たるまで、完全にストロークして下さい。そして歯止めが確実に噛み合ってから、ハンドル棒を下げて下さい。



警告 ハンドル棒を下方向へストロークする毎に、確実に保持歯止めがかみ合い、ハンドル棒を上向きに押し上げる力が、ハンドル棒に加わっていないことを確かめてから、ハンドル棒を上方向にストロークして下さい。ハンドル棒の上部方向へのストローク途中で歯止めがかみ合う前に、作業者が力を抜くとハンドル棒が突然跳ね上がり、大変危険です。

B・下降

リバーシングレバーを下方向へ切替えて下さい。上記Aの記述どおりにハンドル棒を挿入して下さい。ハンドル棒を確り握り、確りと下向きの力を加え

ながらハンドル棒を上方向へ上げて下さい。そして荷を下方向へ下げて下さい。ハンドル棒を上げる時には、ジャッキ本体にソケット上のストッパーが当たるまで、完全にストロークして下さい。そして歯止めが確実に噛み合ってから、ハンドル棒を下げて下さい。



警告 荷を下げるために、ハンドル棒を下方向へ下げながら保持歯止めを外すと、作業者が握っているハンドル棒へ荷の荷重が移りますので、下部方向へ力を入れてハンドル棒を支えて下さい。ハンドル棒を上方向へストロークする時は、作業者は下部方向へ力を加えながら、ゆっくりとハンドル棒を上げて荷を下げて下さい。ハンドル棒の上部方向へのストローク途中で歯止めがかみ合う前に、作業者が力を抜くとハンドル棒が突然跳ね上がり、大変危険です。

(C) ⚠️ 危険 荷を下げる目的でスピードトリップレバーを絶対に操作し無いて下さい。

1. 荷がジャッキ以外の指示器で支えられているのを確認して下さい。
2. リバーシングレバーを下方向へ下げて下さい。
3. 左記の(B)の操作方法で操作して下さい。そして頑丈な支持器の上に荷を徐々に下げて下さい。ジャッキに荷の荷重がかからなくなるまで下げ続けて下さい。
4. ラックバーを落とすために、ハンドル棒を最下部まで下げて下さい。そしてスピードトリップレバーを下げて下さい。そして徐々にハンドル棒を上方向に押し上げて下さい。歯止めが外れる位置で、ラックバーは突然落下します。

ラックバーが落下して、身体に影響を受けないように作業者は注意して下さい。

安全操作手順と安全注意事項

1. ジャッキを使用する前に、作業者は具体的な用途で、安全で的確な使用方法を有資格から指導を受けて下さい。



警告 リールジャッキを、指定された型式やサイズのケーブルリールの持ち上げと移動以外の用途で使用された場合は、下記の手順どおりに操作されても、使用されたジャッキは保証されません。

2. ANSI B30.1 章1-2と1-3による標準記述に従うことに加えて、全てのジャッキは欠陥や手順ラベル、警告ラベル、損傷、的確な潤滑、そして摩耗に対して、使用前毎に有資格によって検査を受けるようにして下さい。全ての機器が適切に機能するかを確認するために、ジャッキ作業をする前に、その全ての作業工程で荷重をかけ無いで操作して下さい。損傷や不適切な潤滑、誤動作するジャッキを決して使用し無いて下さい。検査をして無いジャッキは、指定サービス工場で修理されるまで作業から外して下さい。
3. エナパックリールジャッキは2台で荷を受けて使用します。仕様表を参照し、能力と揚程が荷に対して適切であることを確認して下さい。もし正確に荷重を計算できなければ、推計した荷重で安全に使用するために、大きな余裕を持って許容される以上

の大きな能力を持っている、一組(2台)のジャッキを選定して下さい。

4. 確りした基礎の上に置かれた2台のジャッキが、荷に対して垂直に置かれて、2台が等しくベースにサポートされているかを確認して下さい。またジャッキがリフティングポイントに適切に位置決めされて、ジャッキが滑ったり、荷がずれたりしない方法でサポートされていることを確認して下さい。
5. 各型式で指定されている、エナパックのハンドル棒を使用して下さい。各ジャッキで決められた長さを超えるハンドル棒を使用し無いで下さい。ハンドル棒を他の物で延長して使用し無いで下さい。
6. 人員や物が障害になら無いで、ジャッキのハンドル棒を上下に安全に動かすことができる、作業スペースがとれているかを確認して下さい。
7. ハンドル棒の跳ね上がりのような、荷作業途中の突然のハンドル棒の動きから、重大な人身傷害を防ぐ方法として、作業者の頭や体がハンドル棒の上部を避けて、片側に位置するようにして下さい。
8. ジャッキで荷を上げる操作をする前に、前頁の(A)操作方法を読んで下さい。荷を平行に上げ、起こりえる荷の移動や偶然おこるジャッキの移動に注目し、操作している間は良く観察して下さい。

9. **警告** 人員を荷と一緒に上げ無いで下さい。人員を荷の下部や上に立ち入らせ無いで下さい。

10. 仕様表で表示されているジャッキの揚程まで達してから、ジャッキを伸ばすために力を加えないで下さい。決してハンドル棒を蹴ったり、ハンドル棒の上に乗ったり、跨ったりし無いで下さい。ハンドル棒をハンマーで叩いたり、揺らして力を加え無いで下さい。そのような行為は人身傷害の危険を引き起こします。ジャッキを移動させ、荷を落下させることになります。ジャッキの駆動部分が損傷し故障の原因となります。
11. 安全注意事項として、ジャッキを操作し無い時や、ジャッキ作業の終了後はソケットからハンドル棒を取り外して下さい。ソケットから突き出ている、放置されたハンドル棒へ偶然に当たり、ハンドル棒が移動し、そのことで荷の落下を引き起こし、ジャッキが移動する原因となります。放置されたハンドル棒は、ジャッキの揚程の変化の要因となり危険です。

12. **警告** ジャッキでゆっくりと荷を下げる前に、ジャッキ上の警告ラベルや、前頁の操作説明の(B)(C)を読んで下さい。上記の(7)の手順に基づき、作業者は荷を下げる前に、注意事項として全ての人員と身体の一部が、荷から離れることを遵守して下さい。

メンテナンスと潤滑方法

1. 2頁の2.の手順と、経験者や職権を持った有資格者で規定された、ANSI B30.1章の要件に従って下さい。
2. ジャッキを砂などが付着しないように綺麗にして、見えにくくなったり、剥がれたり損傷したラベルを張り替えて下さい。
3. 歯の部分を除いて、#2 グラファイトグリスでラチェットバーを潤滑して下さい。
4. グレードの高いSAE2WTで、1頁のリールジャッキ図の**アスタリスク(*)**で記されたポイントへ、周期的に潤滑して下さい。グラファイトを含んだオイルを、ラックバーや歯止めの歯の表面に塗らないで下さい。

保証について

1)保証期間

ご購入日より1年間

2)保証事項

通常のご使用で当社の責任に起因する材料、製造上の欠陥が上記保証期間内に発生した場合は、出張修理には対応しておりませんので、商品を弊社に戻して頂いて調査確認後に、無償修理または新品と交換を致します。原則的に調査報告書もお受け致しておりません。また、欠陥や故障に付随して発生する二次的損害および製品の取外し、取付けに関するなどの附帯費用に関して、当社は一切の保証および責任を負いませんのでご了承ください。

3)保証適用除外事項

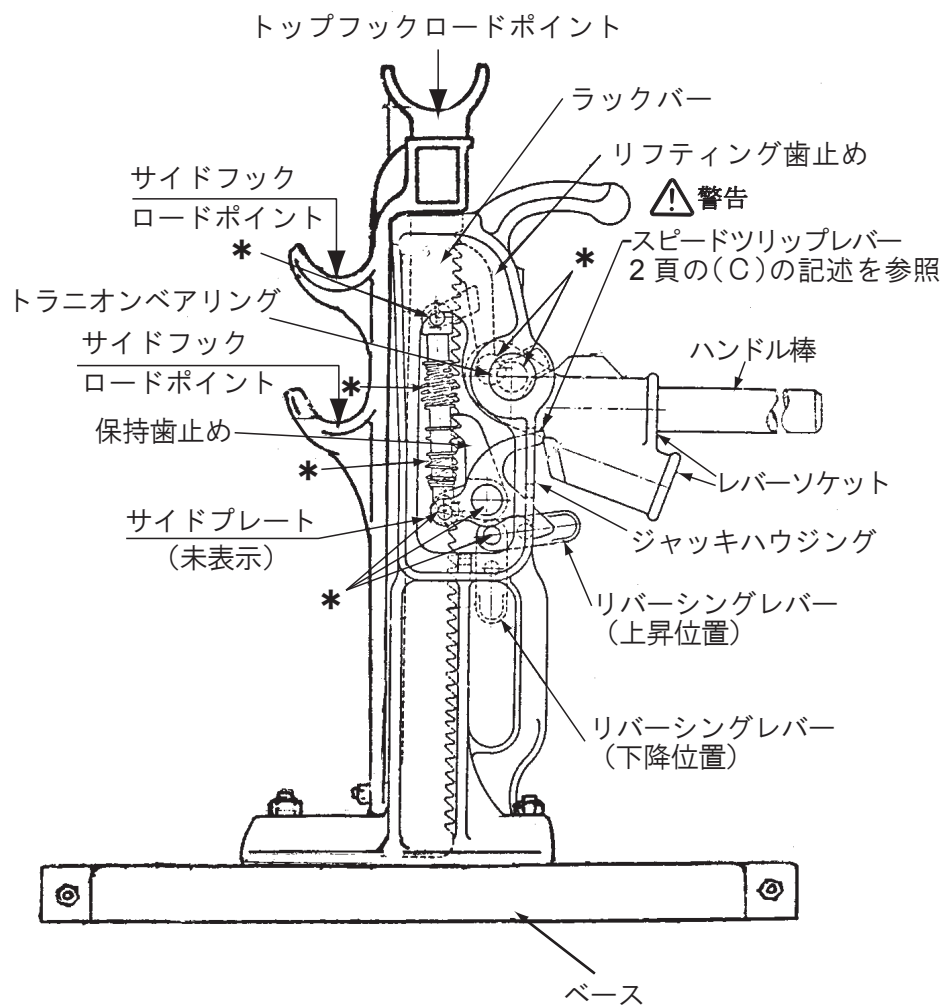
- 製品の誤った選定、誤ったシステムの下で生じた事故、それに伴う他の損害が発生した場合。
- 当社に相談了解なく変更や、改造された場合。
- 過酷な使用による消耗部品の損傷や摩耗による場合。
- 当社製品が、装置や設備等に組み込まれた事故に対する損害。
- 当社製品の故障によって誘発される損害。
- 自然災害による損害。

4)特記事項

- 海外で購入された場合は有償修理になります。
- カタログ標準品を輸出された場合は、海外の当社グループ会社が有償修理致します。
- 特注品を輸出する場合は、事前にアフターサービスについての契約がされていないと、現地修理は受け付けないことがあります。

仕様表

型式	フック位置別能力		最大 ハンドル 操作力 (N)	揚程 ST (mm)	リール 半径 R	トップ フック 高さ (mm)	質量 約 (kg)	ハンドル棒			
	サイド フック (kN)	トップ フック (kN)						型式	長さ (mm)	径 (mm)	質量 (mm)
320B	44	89	1423	254	254~762	533	23.2	10640	914	25	3.6



(注) アスタリスク(*)で記されたポイントへ、定期的に潤滑して下さい。グラファイトを含んだオイルを、ラックバーや歯止めの歯の表面に塗らないで下さい。

給油箇所参考図

POWERFUL SOLUTIONS. GLOBAL FORCE.

Japan Web サイト

エナパック株式会社

カスタマーサービス部

埼玉県さいたま市北区别所町85-7 〒331-0821

TEL.048-662-4911(代表) FAX.048-662-4955

E-Mailアドレス : info@enerpac.co.jp

<http://www.enerpac.co.jp>

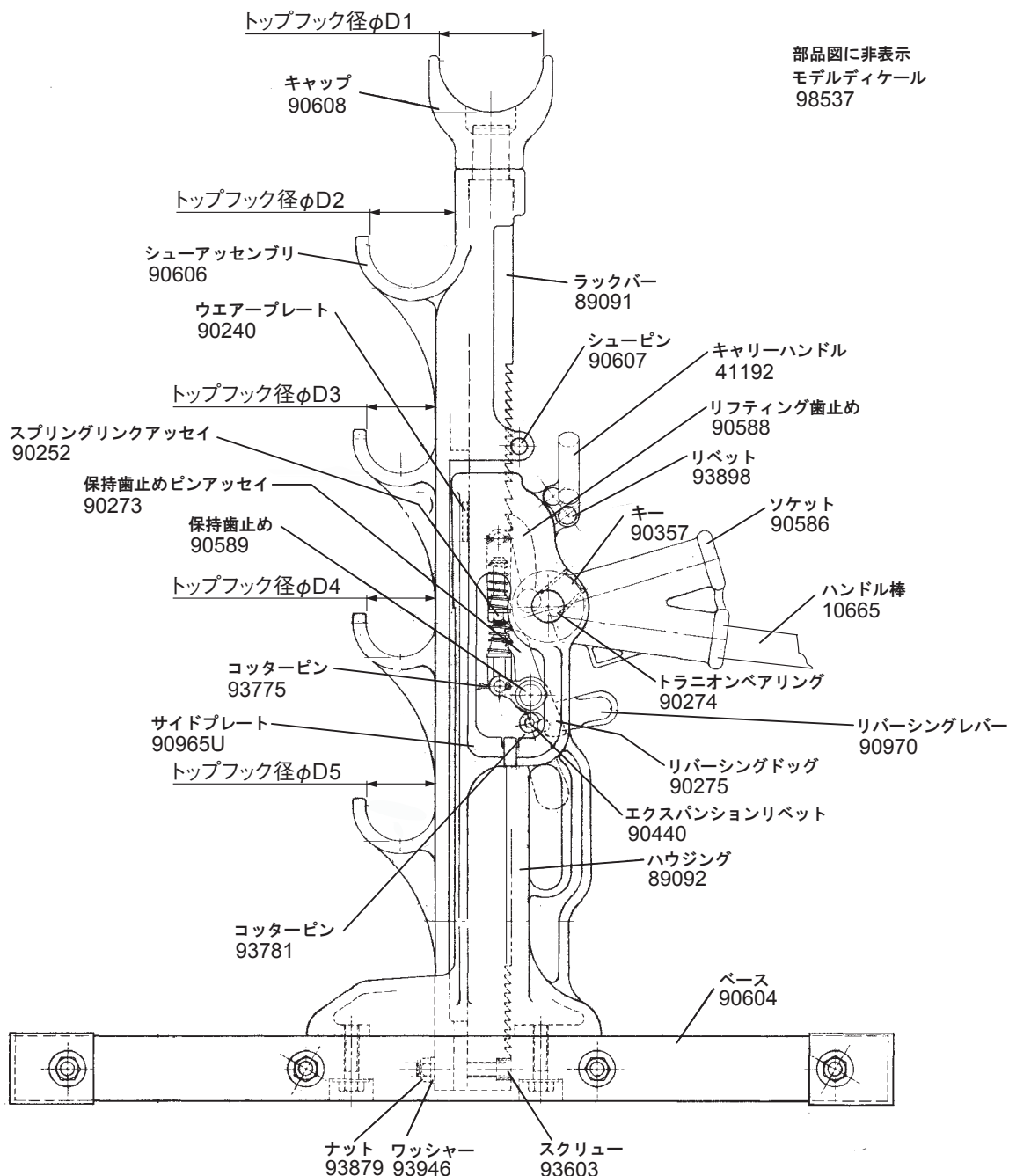
お問い合わせ・ご用命は

●この取扱説明書の内容は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

06/2017

リールジャッキ 型式 321B

部品表



リール軸の使用範囲

型式	フック数	リール軸の使用範囲				
		トップフック	サイドフック			
		軸径φD1 (mm)	軸径φD2 (mm)	軸径φD3 (mm)	軸径φD4 (mm)	軸径φD5 (mm)
321B	5	89	76	60	60	60

重要伝達事項

ご使用の安全のために

1. 本製品は、当社の取扱説明書をよく読み、製品を十分に理解して、危険性を熟知したオペレーターにより運転・操作・保全を行ってください。
2. 本製品を納入稼働後、貴社にて改造・変更を行って、不具合・事故が発生した場合は、弊社のPL補償の対象となりませんのでご了承ください。
3. 本書に記載されている安全注意事項は、身体や機械の損傷レベルにより、次の3レベルに分けて記載してあります。危険度の高い安全注意事項に特に気をつけて作業を行ってください。



危険

当該記載事項を厳守しないと死亡事故を招く恐れがあるもの。



警告

当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に重大な損傷を招く恐れがあるもの。



注意

当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に損傷を招く恐れがあるもの。

操作方法とメンテナンス方法

ジャッキを操作する前に、下記のジャッキ操作方法の詳細を読み、そして理解して下さい。更に、次ページに記載されています、全ての操作手順と安全注意事項の概略を読み理解して下さい。そして有効な操作手順に従って下さい。亦、作業者は装置の所有者や他の資格を持つ人からの指示や、注意事項を守って下さい。

参考文献

1. ジャッキの産業労働作業のための OSHA 災害予防マニュアル
2. OSHA ジャッキの一般業界標準
3. ジャッキのための ANSI B30.1 安全基準

ジャッキの操作方法

A・上昇

リバーシングレバーを上部方向へ切り替えて下さい。適切なソケットを選び、ハンドル棒がソケットの深さいっぱいには挿入されているかを確かめて下さい。ハンドル棒を確りと握り、下向きの力を加えながら上下にストロークして下さい。ハンドル棒を上げる時は、ジャッキ本体にソケット上のストッパーが当たるまで、完全にストロークして下さい。そして歯止めが確実に噛み合ってから、ハンドル棒を下げて下さい。



警告

ハンドル棒を下方向へストロークする毎に、確実に保持歯止めがかみ合い、ハンドル棒を上向きに押し上げる力が、ハンドル棒に加わっていないことを確かめてから、ハンドル棒を上方向にストロークして下さい。ハンドル棒の上部方向へのストローク途中で歯止めがかみ合う前に、作業者が力を抜くとハンドル棒が突然跳ね上がり、大変危険です。

B・下降

リバーシングレバーを下方向へ切替えて下さい。上記Aの記述どおりにハンドル棒を挿入して下さい。ハンドル棒を確りと握り、確りと下向きの力を加え

ながらハンドル棒を上方向へ上げて下さい。そして荷を下方向へ下げて下さい。ハンドル棒を上げる時には、ジャッキ本体にソケット上のストッパーが当たるまで、完全にストロークして下さい。そして歯止めが確実に噛み合ってから、ハンドル棒を下げて下さい。



警告

荷を下げるために、ハンドル棒を下方向へ下げながら保持歯止めを外すと、作業者が握っているハンドル棒へ荷の荷重が移りますので、下部方向へ力を入れてハンドル棒を支えて下さい。ハンドル棒を上部方向へストロークする時は、作業者は下部方向へ力を加えながら、ゆっくりとハンドル棒を上げて荷を下げて下さい。ハンドル棒の上部方向へのストローク途中で歯止めがかみ合う前に、作業者が力を抜くとハンドル棒が突然跳ね上がり、大変危険です。

(C) ⚠️ 危険 荷を下げる目的でスピードトリップレバーを絶対に操作し無いで下さい。

1. 荷がジャッキ以外の指示器で支えられているのを確認して下さい。
2. リバーシングレバーを下部へ下げて下さい。
3. 左記の(B)の操作方法で操作して下さい。そして頑丈な支持器の上に荷を序々に下げて下さい。ジャッキに荷の荷重がかからなくなるまで下げ続けて下さい。
4. ラックバーを落とすために、ハンドル棒を最下部まで下げて下さい。そしてスピードトリップレバーを下げて下さい。そして序々にハンドル棒を上部方向に押し上げて下さい。歯止めが外れる位置で、ラックバーは突然落下します。

ラックバーが落下して、身体に影響を受けないように作業者は注意して下さい。

安全操作手順と安全注意事項

1. ジャッキを使用する前に、作業者は具体的な用途で、安全で的確な使用方法を有資格から指導を受けて下さい。



警告

リールジャッキを、指定された型式やサイズのケーブルリールの持ち上げと移動以外の用途で使用された場合は、下記の手順どおりに操作されても、使用されたジャッキは保証されません。

2. ANSI B30.1 章1-2と1-3による標準記述に従うことに加えて、全てのジャッキは欠陥や手順ラベル、警告ラベル、損傷、的確な潤滑、そして摩耗に対して、使用前毎に有資格によって検査を受けるようにして下さい。全ての機器が適切に機能するかを確認するために、ジャッキ作業をする前に、その全ての作業工程で荷重をかけ無いで操作して下さい。損傷や不適切な潤滑、誤動作するジャッキを決して使用し無いで下さい。検査をして無いジャッキは、指定サービス工場で修理されるまで作業から外して下さい。
3. エナパックリールジャッキは2台で荷を受けて使用します。仕様表を参照し、能力と揚程が荷に対して適切であることを確認して下さい。もし正確に荷重を計算できなければ、推計した荷重で安全に使用するために、大きな余裕を持って許容される以上

の大きな能力を持っている、一組(2台)のジャッキを選定して下さい。

4. 確りした基礎の上に置かれた2台のジャッキが、荷に対して垂直に置かれて、2台が等しくベースにサポートされているかを確認して下さい。またジャッキがリフティングポイントに適切に位置決めされて、ジャッキが滑ったり、荷がずれたりしない方法でサポートされていることを確認して下さい。
5. 各型式で指定されている、エナパックのハンドル棒を使用して下さい。各ジャッキで決められた長さを超えるハンドル棒を使用し無いで下さい。ハンドル棒を他の物で延長して使用し無いで下さい。
6. 人員や物が障害になら無いで、ジャッキのハンドル棒を上下に安全に動かすことができる、作業スペースがとれているかを確認して下さい。
7. ハンドル棒の跳ね上がりのような、荷作業途中の突然のハンドル棒の動きから、重大な人身傷害を防ぐ方法として、作業者の頭や体がハンドル棒の上部を避けて、片側に位置するようにして下さい。
8. ジャッキで荷を上げる操作をする前に、前頁の(A)操作方法を読んで下さい。荷を平行に上げ、起こりえる荷の移動や偶然おこるジャッキの移動に注目し、操作している間は良く観察して下さい。

9. **警告** 人員を荷と一緒に上げ無いで下さい。人員を荷の下部や上に立ち入らせ無いで下さい。

10. 仕様表で表示されているジャッキの揚程まで達してから、ジャッキを伸ばすために力を加えないで下さい。決してハンドル棒を蹴ったり、ハンドル棒の上に乗ったり、跨ったりし無いで下さい。ハンドル棒をハンマーで叩いたり、揺らして力を加え無いで下さい。そのような行為は人身傷害の危険を引き起こします。ジャッキを移動させ、荷を落下させることになります。ジャッキの駆動部分が損傷し故障の原因となります。
11. 安全注意事項として、ジャッキを操作し無い時や、ジャッキ作業の終了後はソケットからハンドル棒を取り外して下さい。ソケットから突き出ている、放置されたハンドル棒へ偶然に当たり、ハンドル棒が移動し、そのことで荷の落下を引き起こし、ジャッキが移動する原因となります。放置されたハンドル棒は、ジャッキの揚程の変化の要因となり危険です。

12. **警告** ジャッキでゆっくりと荷を下げる前に、ジャッキ上の警告ラベルや、前頁の操作説明の(B)(C)を読んで下さい。上記の(7)の手順に基づき、作業者は荷を下げる前に、注意事項として全ての人員と身体の一部が、荷から離れることを遵守して下さい。

メンテナンスと潤滑方法

1. 2頁の2.の手順と、経験者や職権を持った有資格者で規定された、ANSI B30.1章の要件に従って下さい。
2. ジャッキを砂などが付着しないように綺麗にして、見えにくくなったり、剥がれたり損傷したラベルを張り替えて下さい。
3. 歯の部分を除いて、#2 グラファイトグリスでラチェットバーを潤滑して下さい。
4. グレードの高いSAE2WTで、1頁のリールジャッキ図の**アスタリスク(*)**で記されたポイントへ、周期的に潤滑して下さい。グラファイトを含んだオイルを、ラックバーや歯止めの歯の表面に塗らないで下さい。

保証について

1)保証期間

ご購入日より1年間

2)保証事項

通常のご使用で当社の責任に起因する材料、製造上の欠陥が上記保証期間内に発生した場合は、出張修理には対応しておりませんので、商品を弊社に戻して頂いて調査確認後に、無償修理または新品と交換を致します。原則的に調査報告書もお受け致しておりません。また、欠陥や故障に付随して発生する二次的損害および製品の取外し、取付けに関するなどの附帯費用に関して、当社は一切の保証および責任を負いませんのでご了承ください。

3)保証適用除外事項

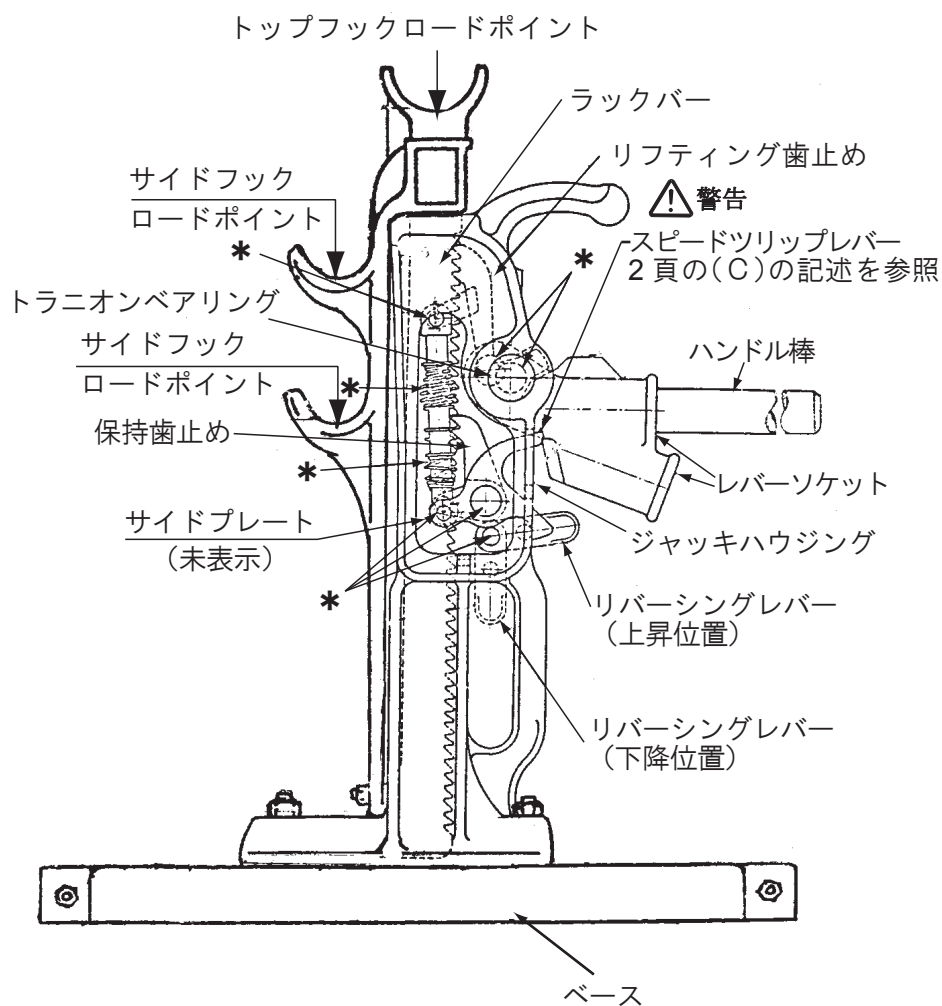
- 製品の誤った選定、誤ったシステムの下で生じた事故、それに伴う他の損害が発生した場合。
- 当社に相談了解なく変更や、改造された場合。
- 過酷な使用による消耗部品の損傷や摩耗による場合。
- 当社製品が、装置や設備等に組み込まれた事故に対する損害。
- 当社製品の故障によって誘発される損害。
- 自然災害による損害。

4)特記事項

- 海外で購入された場合は有償修理になります。
- カタログ標準品を輸出された場合は、海外の当社グループ会社が有償修理致します。
- 特注品を輸出する場合は、事前にアフターサービスについての契約がされていないと、現地修理は受け付けないことがあります。

仕様表

型式	フック位置別能力		最大 ハンドル 操作力 (N)	揚程 ST (mm)	リール 半径 R	トップ フック 高さ (mm)	質量 約 (kg)	ハンドル棒			
	サイド フック (kN)	トップ フック (kN)						型式	長さ (mm)	径 (mm)	質量 (mm)
321B	89	178	1957	305	254~1219	876	58.2	10665	1524	32	7.7



(注) アスタリスク(*)で記されたポイントへ、周期的に潤滑して下さい。グラファイトを含んだオイルを、ラックバーや歯止めの歯の表面に塗らないで下さい。

給油箇所参考図

POWERFUL SOLUTIONS. GLOBAL FORCE.

Japan Web サイト

エナパック株式会社

カスタマーサービス部

埼玉県さいたま市北区别所町85-7 〒331-0821

TEL.048-662-4911(代表) FAX.048-662-4955

E-Mailアドレス: info@enerpac.co.jp

<http://www.enerpac.co.jp>

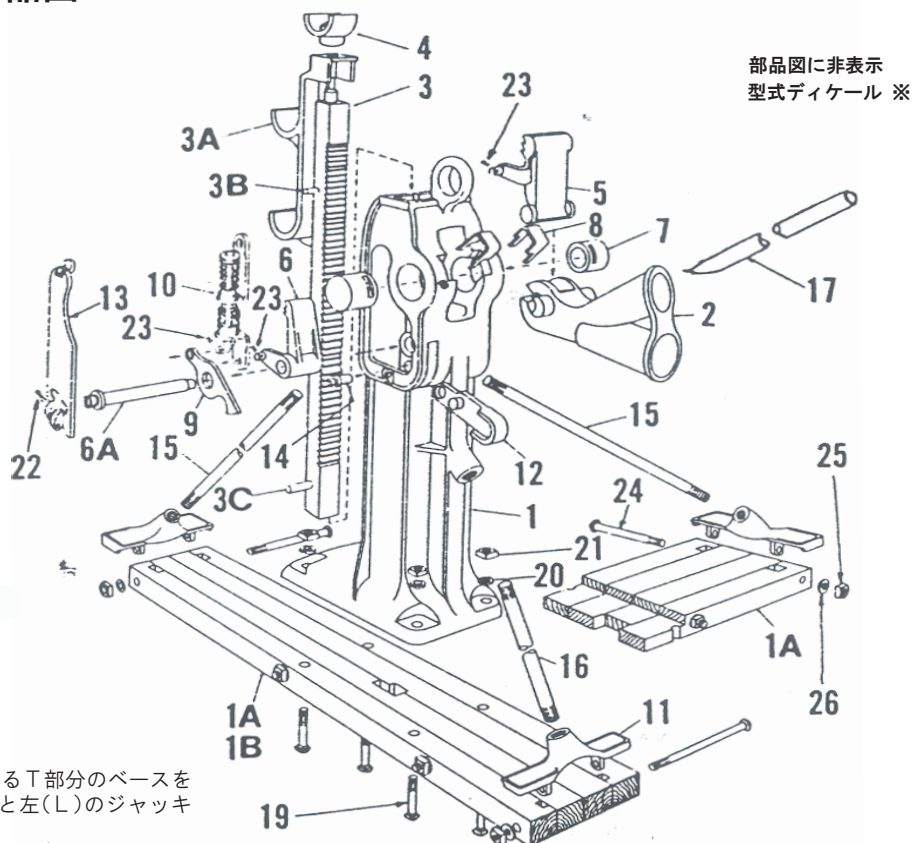
お問い合わせ・ご用命は

●この取扱説明書の内容は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

06/2017

リールジャッキ 型式 A1029R・L

部品図



注意

右側または左側と互換性があるT部分のベースを除いて、全ての部品は右(R)と左(L)のジャッキとも同じです。
(分解図は型式A1029Rです。)

部品表

No.	番号	部品表	数量	No.	番号	部品表	数量
1	90973	ハウジング	1	10	90252	スプリングリンクアッセンブリ	1
1A	86815	ベース	1	11	90620	ベースブラケット	3
1B	86816	ベース	1	12	90970	リバーシングレバー	1
2	90586	ソケット	1	13	90965U	サイドプレート	1
3	90974	ラックバー	1	14	90440	リバーシングレバー用リベット	1
3A	90615	留め金型シュウ	1	15	90621	ロング支柱	2
3B	93826	スパイラルピン	1	16	90622	ショート支柱	1
3C	93828	スパイラルピン	1	19	93767	ジャッキ固定用ボルト	4
4	90618	キャップ	1	20	93946	ロックワッシャ	4
5	90588	リフティング歯止	1	22	93781	コッターピン	1
6	90589	支持歯止め	1	23	93775	コッターピン	3
6A	90273	支持歯止めピン	1	24	93768	ブラケット固定用ボルト	3
7	90274	トラニオンベアリング	2	25	93855	六角ナット	7
8	90357	キー	2	26	93926	プレートワッシャ	3
9	90275	スプリングリンクレバー	1	※	98538	型式ディケール	1

重要伝達事項

ご使用の安全のために

1. 本製品は、当社の取扱説明書をよく読み、製品を十分に理解して、危険性を熟知したオペレーターにより運転・操作・保全を行ってください。
2. 本製品を納入稼働後、貴社にて改造・変更を行って、不具合・事故が発生した場合は、弊社のPL補償の対象となりませんのでご了承ください。
3. 本書に記載されている安全注意事項は、身体や機械の損傷レベルにより、次の3レベルに分けて記載してあります。危険度の高い安全注意事項に特に気をつけて作業を行ってください。



危険

当該記載事項を厳守しないと死亡事故を招く恐れがあるもの。



警告

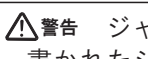
当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に重大な損傷を招く恐れがあるもの。



注意

当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に損傷を招く恐れがあるもの。

リールジャッキ型式A1029R・A1029L 操作方法とメンテナンス方法



警告

ジャッキを使用する前に、下記のA・B・Cに書かれたジャッキの操作方法を読み、理解して下さい。亦、次頁に書かれた全ての安全操作手順と安全注意事項を読み、そして理解して下さい。そして適切な操作手順に従って下さい。

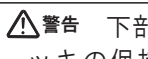
参考文献

1. ジャッキの産業労働作業のための OSHA 災害予防マニュアル
2. OSHA ジャッキの一般業界標準
3. ジャッキのための ANSI B30.1 安全基準

ジャッキの操作方法

A・(上昇)

リバーシングレバーを上部位置へ動かして下さい。適切なソケットを選んで、ハンドル棒がソケットの深さいっぱいまで、差し込まれているかを確認して下さい。ハンドル棒を確り握って下さい。そして下部方向へストロークする毎に、確実に下部方向への力をコントロールしながら、下部方向へ力を加えてストロークして下さい。ストロークを上部方向へ切り替える前に、歯止めを確実に噛み合わせて下さい。



警告

下部方向へのストロークを終える毎に、ジャッキの保持歯止めがかみ合い、そして上部方向へストロークを切り替える前に、ハンドル棒に荷の負荷がかかっていないことを確認してから、ハンドル棒にかけている作業者の力を抜いて下さい。ハンドル棒へ荷の負荷がかかっている時に、作業者がハンドル棒を放すと、ハンドル棒が突然跳ね上がり、人身傷害を引き起こす原因となり大変危険です。

B・(下降)

リバーシングレバーを下部方向へ切替えて下さい。操作方法(A)のように、ハンドル棒をソケットへ挿入して下さい。ハンドル棒を確り握って下さい。

そして上部方向へストロークする毎に、確実に下部方向への力をコントロールしながら、下部方向への力を加えながら上部方向へストロークして下さい。更に、ストロークを上部方向へ切り替える前に、歯止めを確実に噛み合わせて下さい。

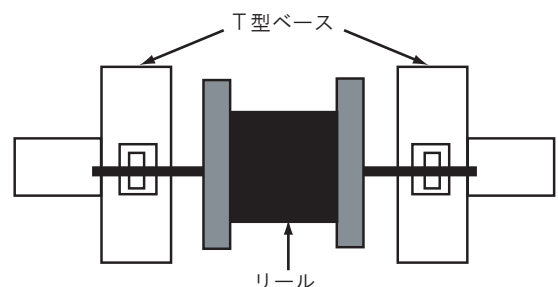


警告

下部方向へのストロークで保持歯止めが外れます。外れると手で操作しているハンドル棒に荷の荷重がかかります。上部方向へストロークしている間、作業者はハンドル棒へ下部方向に加えている力をコントロールして、下部方向へ力を加えながら、ゆっくりとハンドル棒を上部方向へストロークして下さい。上部方向へのストロークを終える前に、作業者が下部方向へ加えている力を抜いてしまうと、ハンドル棒が突然跳ね上がり、人身傷害を引き起こす原因となり大変危険です。

C (ジャッキの配置)

下記図のように、リールからT形ベースを放した位置でジャッキを配置して下さい。



安全操作手順と安全注意事項

1. ジャッキを使用する前に、作業者は具体的な用途で、安全で的確な使用方法を有資格から指導を受けて下さい。



警告

リールジャッキを、指定された型式やサイズのケーブルリールの持ち上げと移動以外の用途で使用された場合は、下記の手順どおりに操作されても、使用されたジャッキは保証されません。

2. ANSI B30.1 章1-2 と1-3 による標準記述に従うことに加えて、全てのジャッキは欠陥や手順ラベル、警告ラベル、損傷、的確な潤滑、そして摩耗に対して、使用前毎に有資格によって検査を受けるようにして下さい。全ての機器が適切に機能するかを確認するために、ジャッキ作業をする前に、その全ての作業工程で荷重をかけ無いで操作して下さい。損傷や不適切な潤滑、誤動作するジャッキを決して使用し無いで下さい。検査をして無いジャッキは、指定サービス工場で修理されるまで作業から外して下さい。
3. エナパックリールジャッキは2台で荷を受けて使用します。仕様表を参照し、能力と揚程が荷に対して適切であることを確認して下さい。もし正確に荷重を計算でき無ければ、推計した荷重で安全に使用するために、大きな余裕を持って許容される以上の大きな能力を持っている、一組(2台)のジャッキ

を選定して下さい。

4. 確りした基礎の上に置かれた2台のジャッキが、荷に対して垂直に置かれて、2台が等しくベースにサポートされているかを確認して下さい。またジャッキがリフティングポイントに適切に位置決めされて、ジャッキが滑ったり、荷がずれたりしない方法でサポートされていることを確かめて下さい。
5. 各型式で指定されている、エナパックのハンドル棒を使用して下さい。各ジャッキで決められた長さを超えるハンドル棒を使用し無いで下さい。ハンドル棒を他の物で延長して使用し無いで下さい。
6. 人員や物が障害になら無いで、ジャッキのハンドル棒を上下に安全に動かすことができる、作業スペースがとれているかを確認して下さい。
7. ハンドル棒の跳ね上がりのような、荷作業途中の突然のハンドル棒の動きから、重大な人身傷害を防ぐ方法として、作業者の頭や体がハンドル棒の上部を避けて、片側に位置するようにして下さい。
8. ジャッキで荷を上げる操作をする前に、前頁の(A)操作方法を読んで下さい。荷を平行に上げ、起こりえる荷の移動や偶然おこるジャッキの移動に注目し、操作している間は良く観察して下さい。

9. **△警告** 人員を荷と一緒に上げ無いで下さい。人員を荷の下部や上に立ち入らせ無いで下さい。

10. 仕様表で表示されているジャッキの揚程まで達してから、ジャッキを伸ばすために力を加えないで下さい。決してハンドル棒を蹴ったり、ハンドル棒の上に乗ったり、跨ったりし無いで下さい。ハンドル棒をハンマーで叩いたり、揺らして力を加え無いで下さい。そのような行為は人身傷害の危険を引き起こします。ジャッキを移動させ、荷を落下させることになります。ジャッキの駆動部分が損傷し故障の原因となります。
11. 安全注意事項として、ジャッキを操作し無い時や、ジャッキ作業の終了後はソケットからハンドル棒を取り外して下さい。ソケットから突き出ている、放置されたハンドル棒へ偶然に当たり、ハンドル棒が移動し、そのことで荷の落下を引き起こし、ジャッキが移動する原因となります。放置されたハンドル棒は、ジャッキの揚程の変化の要因となり危険です。

12. **△警告** ジャッキでゆっくりと荷を下げる前に、ジャッキ上の警告ラベルや、前頁の操作説明の(B)(C)を読んで下さい。上記の(7)の手順に基づき、作業者は荷を下げる前に、注意事項として全ての人員と身体の一部が、荷から離れることを遵守して下さい。

メンテナンスと潤滑方法

1. 2頁の2.の手順と、経験者や職権を持った有資格者で規定された、ANSI B30.1章の要件に従って下さい。
2. ジャッキを砂などが付着しないように綺麗にして、見えにくくなったり、剥がれたり損傷したラベルを張り替えて下さい。
3. 歯の部分を除いて、#2 グラファイトグリスでラチェットバーを潤滑して下さい。
4. グレードの高いSAE2WTで、4頁のリールジャッキ図の**アスタリスク(*)**で記されたポイントへ、周期的に潤滑して下さい。グラファイトを含んだオイルを、ラックバーや歯止めの歯の表面に塗らないで下さい。

保証について

1)保証期間

ご購入日より1年間

2)保証事項

通常のご使用で当社の責任に起因する材料、製造上の欠陥が上記保証期間内に発生した場合は、出張修理には対応しておりませんので、商品を弊社に戻して頂いて調査確認後に、無償修理または新品と交換を致します。原則的に調査報告書もお受け致しておりません。また、欠陥や故障に付随して発生する二次的損害および製品の取外し、取付けに関するなどの附帯費用に関して、当社は一切の保証および責任を負いませんのでご了承ください。

3)保証適用除外事項

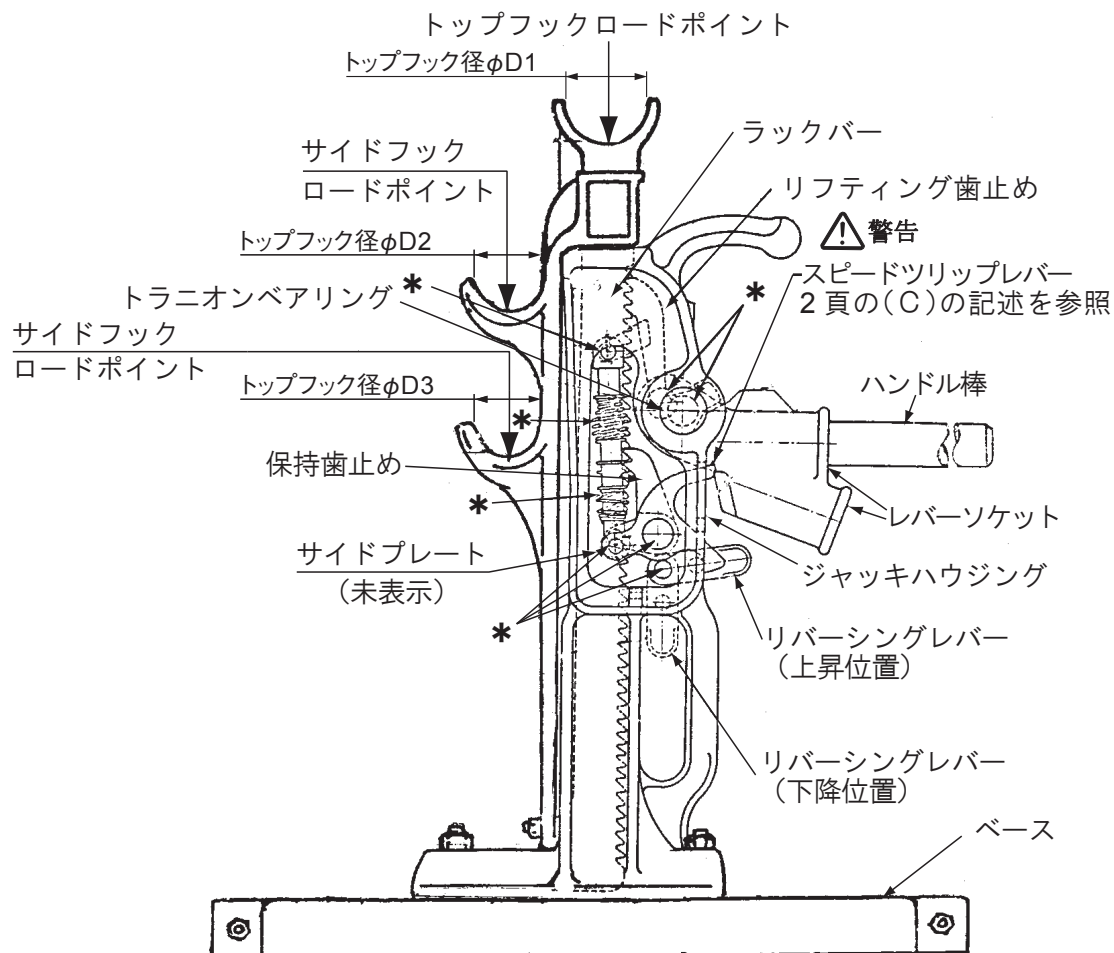
- 製品の誤った選定、誤ったシステムの下で生じた事故、それに伴う他の損害が発生した場合。
- 当社に相談了解なく変更や、改造された場合。
- 過酷な使用による消耗部品の損傷や摩耗による場合。
- 当社製品が、装置や設備等に組み込まれた事故に対する損害。
- 当社製品の故障によって誘発される損害。
- 自然災害による損害。

4)特記事項

- 海外で購入された場合は有償修理になります。
- カタログ標準品を輸出された場合は、海外の当社グループ会社で有償修理致します。
- 特注品を輸出する場合は、事前にアフターサービスについての契約がされていないと、現地修理は受け付けないことがあります。

仕様表

型式	フック位置別能力		最大 ハンドル 操作力 (N)	揚程 ST (mm)	リール 半径 R	トップ フック 高さ (mm)	質量 約 (kg)	ハンドル棒			
	サイド フック (kN)	トップ フック (kN)						型式	長さ (mm)	径 (mm)	質量 (mm)
A1029-R	89	178	1957	205	457~1067	791	39.1	10665	1524	32	7.7
A1029-L											



(注) アスタリスク(*)で記されたポイントへ、周期的に潤滑して下さい。グラファイトを含んだオイルを、ラックバーや歯止めの歯の表面に塗らないで下さい。

給油箇所参考図

リール軸の使用範囲

型式	フック数	トップフック	サイドフック	
		軸径φD1 (mm)	軸径φD2 (mm)	軸径φD3 (mm)
A1029-R	3	76	60	60
A1029-L	3	76	60	60

POWERFUL SOLUTIONS. GLOBAL FORCE.

Japan Web サイト

エナパック株式会社

カスタマーサービス部

埼玉県さいたま市北区別所町85-7 〒331-0821

TEL.048-662-4911(代表) FAX.048-662-4955

E-Mailアドレス: info@enerpac.co.jp

<http://www.enerpac.co.jp>

お問い合わせ・ご用命は

●この取扱説明書の内容は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。